

## 年度末のご挨拶 —リニューアルに向けて—

厳しい寒さと新型コロナ第6波の中、2021年度が終わろうとしています。当ミュージアムは昨年の春からリニューアル準備のために休館していましたが、ついにこれから1年半かけて本格的な工事に入ります。建物の内部が全面的に改造されますので、事務室も2023年のリニューアル完成まで洋館に移ります。大規模な改修となりますため、検討には、実際の工事期間よりも長い時間をかけました。それは、今回のリニューアルを単なるルーティンな施設の修理や改善にとどまらず、展示構成、内容を抜本的に刷新し、全くあたらしいミュージアムを誕生させるという意気込みで検討が進行したからです。全学レベルの会議や専門家を交えた会議・打ち合わせが数えきれないほど開催され、やっと具体的な工事に入ることになりました。まだこれからも展示内容の詰めはリニューアル開館まで行われます。ただ、大枠は大体見えてきましたので、これまでに決まったことと、大体の完成像をかいつまんでお話ししたいと思います。

まず、「平和と民主主義の教学理念を具体化する教育・研究機関として、また社会に開かれ、発信する社会開放施設」としての立命館大学国際平和ミュージアムの理念は不動です。そして、加害者と被害者の両方向から戦争の惨禍を記憶し後世に伝えると同時に、平和創造への道筋を模索するという展示コンセプトも変わっていませんが、展示の方法や物理的構成は、全く新しいものとなって現れます。まず今まで地階と2階に分かれていた常設展示室が地階に統合され、空間的な断絶のない展示導線が実現されます。中野記念ホールは、そのまま1階に残りますが、企画展示室、「無言館/京都館一いのちの画室」、ラウンジ・ギャラリー、事務室が同じ1階にまとまり、総合受付も中央部に設置されます。2階には収蔵庫、「ピース・コモンズ」(学習施設・学習空間)、国際平和メディア資料室、セミナー室、平和教育研究センターが配置されます。

常設展示概要としては、大きく年表展示とテーマ展示に分けられます。戦争と平和の歴史を辿る年表展示は地階常設展示場の北側と西側の壁側に展開され、今を考えるためのヒントを見つけるテーマ展示はプロローグとエピローグの間に4つのテーマ別に展開されます。そして最後に問いかけ展示として、プロローグで問いかけた戦争・平和とは?という問題に自分で向き合う機会を与えることとなります。一言でいうならば、未来の平和のあり方を戦争記憶と

吾郷 眞一 (国際平和ミュージアム館長)



平和を求めた歴史、現在の課題、将来の展望をみつめる流れで考える、換言すれば戦争記憶と平和を求めた歴史から未来の平和のあり方を考える大きなストーリーライン(従来の15年戦争を中軸に置く歴史叙述にとどめず、グローバルヒストリーという観点からみる)で追い、視点を深めるためのテーマ展示で補強するという仕組みになっています。いろいろな技術的工夫を凝らした年表展示とテーマ展示の往還を通じて、未来を変えていくための視座を獲得し、平和創造の主体者へと導いていくことが期待されています。

これからの改修工事の1年半、私たちにはまだまだ仕事がたくさん残っています。展示物一つ一つはまだ決まっていないからです。今までの収蔵品のある程度が再展示されることは間違いありませんが、そうでないものも多く、これから収集にかかるものすらあります。休館中も情報発信は続けていかなければならないので、ヴァーチャルミュージアムを拡充しなくてはなりません。実際に行われていた館長講義も、ビデオに撮ってDVDの形で提供するというようなこともやっています。また、この機会を利用してびわこ・くさつキャンパスや大阪いばらきキャンパスでもミュージアムとしてのメッセージを積極的に発信しようとしていますので、リニューアル準備だけでなく追加の仕事が山積しています。

見せることを基本とする博物館を閉めるということは、私たちにとって大変な事態なのですが、コロナ禍で見学に制限が加わっていることは、ある意味では不幸中の幸いでした。さすがに2023年9月には、団体での見学が自由になっているはずですが、皆様を驚かせるようなリニューアルを実現すべく、休館中鋭意努力してまいりますので、どうか引き続きご支援いただきますようお願いいたします。

## ボランティアガイドコラム

### デジタル平和講話「戦争と平和 子どもたちへ伝えたい！」の制作にあたって

「デジタル平和講話」の制作は、期せずして「ミュージアムオフィス」と「平和友の会」の思いが一致し、その後、互いに補完し協力しながら、16本のDVDを完成させました。

ここでは、「平和友の会」の立場からこの「デジタル平和講話」を紹介します。

1992年に立命館大学国際平和ミュージアムが開館し、ガイド養成講座の受講生が中心となり、1993年に「平和友の会」が結成されました。会員には、ガイドではない人も半数います。会員は常設展の見学に伴う「平和講話」も担い、その内容は戦争体験談が殆どでした。個人の実体験だけに真に迫った戦争の実相を伝える話は戦後生まれの世代に大きなインパクトを与えてきました。しかしながら、戦争体験者が年々高齢化し退会される方も出てくる中で、「平和友の会」として、個人の体験を語り継ぐ世代を意識的に創っていくということになり、「平和講話のDVD化」を進めていました。そんな折にミュージアムとの協力体制ができましたので、「戦争体験」だけではなく、「親たちの戦争」と「子どもたちに伝えたいこと」も収録しました。休館中だけでなくリニューアル後の利用も見据えて取り組みました。

資料は出典を確認し、信頼できる情報源かどうかの見極めに時間がかかりました。最も苦慮した点は著作権問題です。画像の多くはミュージアム所蔵のものを使用させても

らいましたが、外部団体に趣旨を説明して無料で提供いただいた資料もあります。経費節約のためアカペラで歌い、特技を生かした題字・作画・検証・編集・DVDに変換等のもろもろの作業にミュージアムスタッフと会員が協働しました。収録者はコロナ禍の下、打合せ・シナリオ・リハーサル・本番と何度も足を運ぶことになりましたが、平和にかける熱い思いと強い意志で成し遂げました。

このDVDが、教育現場に広く知られて活用されることを望むと同時に、リニューアル後のミュージアムでの視聴においても、戦争を知らない世代が戦時の状況を正しく捉え、生きている今を理性的に見つめて平和創造に努力する一助となることを期待してやみません。

(ボランティアガイド：小野 房子)



## 学生スタッフ 活動記録



私たち学生スタッフは、2021年度はすごろく制作や企画の開催などに取り組みました。そのひとつとして、12月6日に公益財団法人京都環境保全活動推進協会（京エコロジーセンター指定管理者）の新堀春輔さんを講師にお迎えして、ワークショップ「SDGsってなんだろう～身近なところから学ぼう～」を開催しました。

このワークショップでは、SDGsの基本的な事項を学ぶとともに、社会との関わりと、私たちにできる取り組みを考えることを目的としました。

当日は、新堀さんからSDGsの概要についての講義をしていただいた後、グループディスカッションを通して、身

## ワークショップ担当学生スタッフ編

近で行われているSDGsの取り組みや、参加している活動などの情報交換を行いました。

参加者からは、「SDGsを改めて考えるきっかけになった」「SDGsに関する様々な活動が身の回りで行われているということに気づいた」などのコメントを頂き、SDGsを身近に感じてもらうことができました。また、この企画を通して、SDGsとの向き合い方や貢献する方法も考えることができました。

今回の企画メンバーは、コロナ禍に学生スタッフとなり、ワークショップを企画した経験がない学生がほとんどでした。これまで一緒に活動することが少なかったため、お互いのことをよく知らない中での企画準備で大変でした。しかし、企画の立ち上げからミーティングを通して、本番を迎えるころには意見を言い合える仲間になりました。手探りで準備を進める中で、お互いに思っていることを言い合う大切さや、助け合いの精神を育むことができたと思います。また、職員の方々の助けを借りながら、企画の立ち上げ方や広報・運営の方法についても学ぶことができました。

これからも、学生スタッフ一丸となってミュージアムを盛り上げていきます！

(ワークショップ担当学生スタッフ：清川 綾乃)

※SDGsとは：2015年の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。地球上の「誰一人として取り残さない」ことを誓っており、17のゴールと169のターゲットから構成されている。

## 特別展実施報告 世界報道写真展2021 – WORLD PRESS PHOTO21 –

### 滋賀会場 (立命館大学びわこ・くさつキャンパス)

会期 2021年10月11日⑨～10月15日⑩

会場 エポック立命21 エポックホール

参観者 237名

※2021年9月20日より開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より開幕を延期しました。

### 京都会場 (立命館大学衣笠キャンパス)

会期 2021年10月18日⑨～10月31日⑩

会場 立命館大学西園寺記念館 カンファレンスルーム

参観者 1,570名

主催：立命館大学国際平和ミュージアム、朝日新聞社、世界報道写真財団

後援：オランダ王国大使館、公益社団法人日本写真協会、公益社団法人日本写真家協会、全日本写真連盟  
京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都市内博物館施設連絡協議会、NHK京都放送局（衣笠キャンパス開催分）、KBS京都、滋賀県、草津市、大津市、滋賀県教育委員会、草津市教育委員会、大津市教育委員会、NHK大津放送局（びわこ・くさつキャンパス開催分）、びわ湖放送株式会社

協力：特定非営利活動法人 国境なき医師団日本（東京）



今年で64回目を迎えた「世界報道写真展」。今回は世界各地の約130の国と地域から74,470点の応募がありました。会場には、マッズ・ニッセンがブラジルのサンパウロにあるヴィヴァ・ベム介護施設で、新型コロナウイルス感染防止の「ハグカーテン」越しに抱きしめあう様子を捉えた「初めての抱擁」といった大賞作品のほか、全8部門において、28か国45人の受賞作品が並びました。2020年度は、新型コロナ感染症拡大予防の観点から、日本における展示が中止となったことで、2021年度の開催を待っておられたリピーターの方をはじめ、高齢層を中心に新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より行動が制限された中ではありましたが、多くの方に来場いただき、一枚一枚に向き合うことで、世界でいま何が起きているのかを受け止め、「平和」について考えていただく機会となりました。

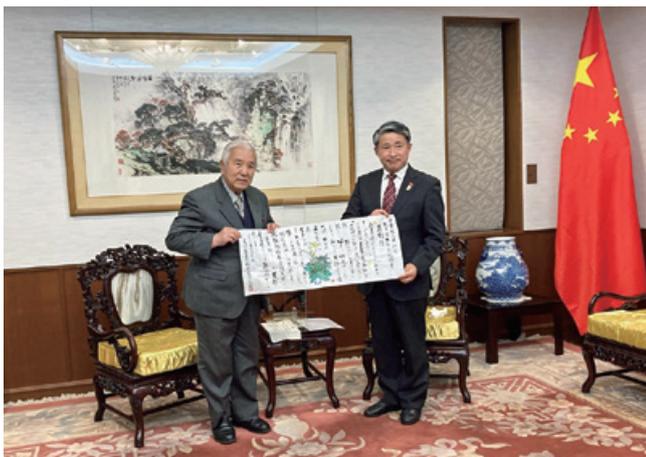
参観者よりアフターコロナにおける行動についてや、若い世代からの今後自分たちにできることを考えていきたいといった前向きな感想、また世界報道写真展のような展示を今後とも継続して欲しいといった感想が多く寄せられました。

(立命館大学国際平和ミュージアムオフィス：田島 募)

## 遊心雑記

### 王希奇画伯作『一九四六』神戸展のこと

安齋 育郎 (国際平和ミュージアム名誉館長)



総理事 (右) に絵手紙要請状を手渡しました

日中国交回復から50周年に当たる2022年の8月31日(水)～9月4日(日)、兵庫県立原田の森ギャラリーで、中国の王希奇画伯(魯迅美術学院教授)の大作『一九四六』神戸展を開催することになりました。私は実行委員会の代表を務めています。

この絵は、アジア太平洋戦争終結後に中国大陸から引き揚げる日本人の群像を描いた高さ3メートル、長さ20メートルの大作で、絵のタイトルにもなっている1946年に、105万人を

超える日本人が中国・遼寧省葫蘆(ころ)島から送還された歴史的事実を描いた作品です。中国で「葫蘆島日僑大遣返」と呼ばれているこの大事業は、連合国のポツダム宣言に伴う協議によって、中国国民政府が陸上輸送を、アメリカ政府が海上輸送を担当して取り組まれました。中国とアメリカが協力して日本人の大送還事業に取り組んだ事実は、現代の日本の若い人たちの間では広く知られておらず、国境を越えた人間愛をベースに描いた作家の心を多くの人々に伝えるために今回の神戸開催が計画されました。神戸での開催は、東京(2017年)、舞鶴(2018年)、仙台(2019年)、高知(2021年)に次いで国内5回目になります。

王希奇さんは2011年にこの作品を手がけ、完成までに7年近い歳月をかけました。モノクロームの作品で、敗戦という事実の中で疲弊した表情の帰還者たちが黙々と引揚船に向かって歩く群像ですが、作家は所々に鋭いまなざしの人物を丁寧に描き込むなど、戦争がもたらした悲惨な実態を人間的な心で描こうとしています。

開催準備の過程で、私は中華人民共和国駐大阪総領事館を訪れ、薛剣大使級総領事らとお会いして協力を要請しました。総領事からは「文化事業を通じた草の根の交流は極めて重要であり、今回の絵画展に中国大使館としても大阪総領事館としても協力したい」との積極的な申し出がありました。多くの日本の方々が訪れることを期待しています。

# 平和 Lab.

～戦争がなければ平和なの？～ **完成!**

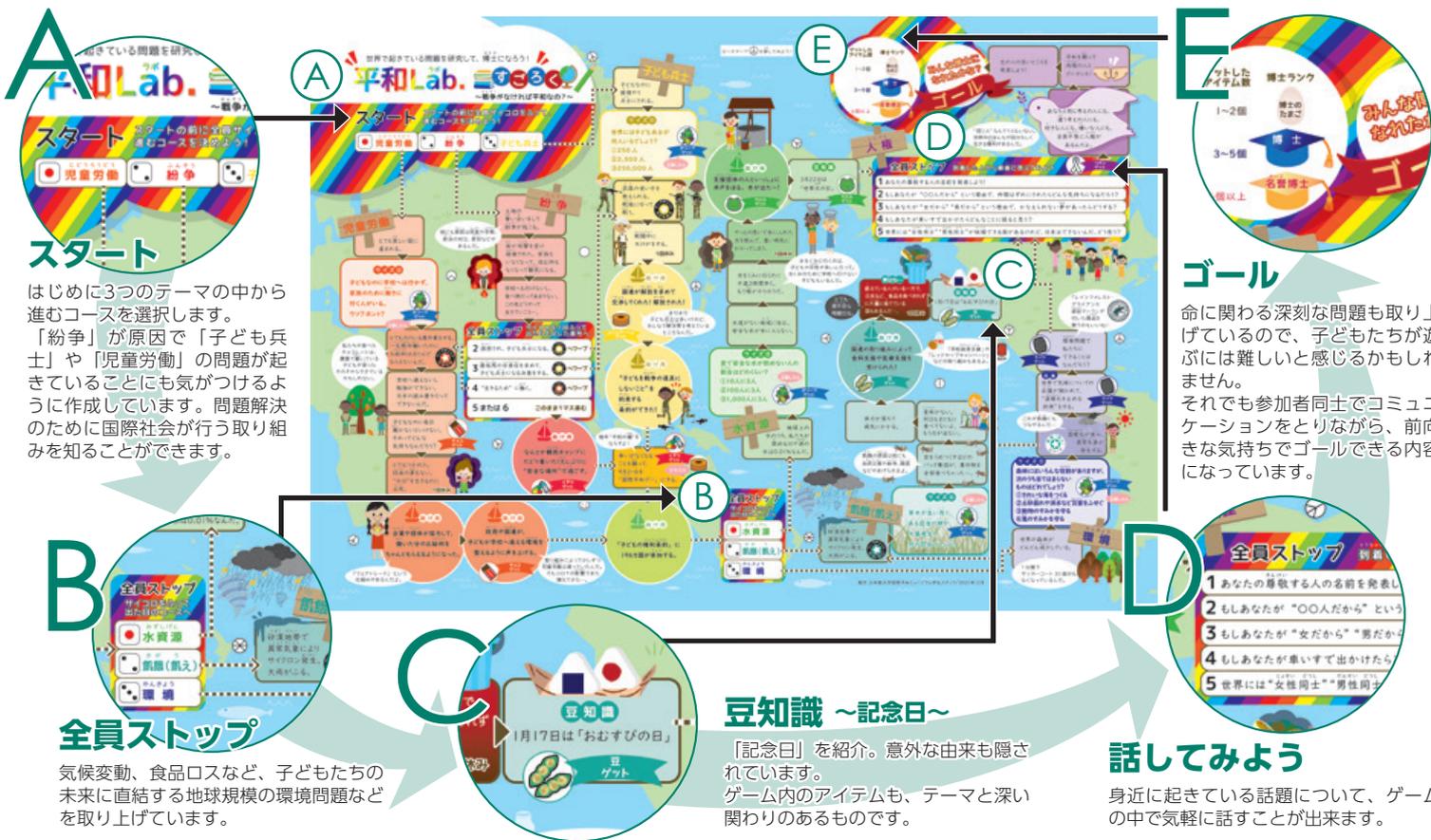
学生スタッフ作成のすごろくゲーム「平和 Lab. ～戦争がなければ平和なの？～」が完成いたしました。

Web サイトからダウンロードしてお楽しみください。

<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/exhibition/event/20210708/>



こちらよりDL ↓



リニューアルのため、2021年4月～2023年9月（予定）まで休館いたします。

## 「デジタル平和講話」のご案内

国際平和ミュージアムでは「デジタル平和講話・講話」の開発を行いました。それぞれ30分程度の内容でDVDにてご希望の団体等に提供いたします。

「デジタル平和講話」は当館の平和友の会のみなさんによる講話で以下のテーマのものを準備しています。ご自身やご家族の体験などをお話しいただいています。

- ① 学校は兵営のようになった  
— 戦時下の立命館第一中学校の軍事教練 —
  - ② 国家総動員の中での体験 — 小学4年生～6年生 —
  - ③ 国家総動員の中での体験 — 女学校時代 —
  - ④ ぞうさんたちの死 — 戦争と岡崎動物園 —
  - ⑤ 青い目の人形
  - ⑥ ニューギニアからの生還  
— 出征兵士「橋村清治」さんのお話 —
  - ⑦ 沖縄研修旅行の事前学習のために
  - ⑧ 父の戦争体験
  - ⑨ 兄弟四人の戦争
  - ⑩ 五八年後の原爆 — 若者たちに平和へのバトンを託す —
  - ⑪ 敗戦時の東京農業大学満州報国農場  
— 2度国に棄てられた農学生たちの記録 —
  - ⑫ 子どもたちを戦場に送りだすための教育  
— 2度と「墨塗り」教科書の悲劇をくりかえさないために —
  - ⑬ 戦争中の子ども  
— 母の大阪空襲・広島原爆体験 —
  - ⑭ 二度の死線を越えて — 母の大阪空襲・広島原爆体験 —
  - ⑮ 戦地から帰ってきた中野信夫（医者）のお話  
— インパール作戦ビルマ敗走記 —
  - ⑯ 核兵器のない世界と未来をめざしましょう
- ※⑯は貸出対応ができません。リニューアルオープン後に来館の上、ご視聴いただけます。

詳しくは当館のホームページをご確認の上、お電話にてお問い合わせください。

立命館大学国際平和ミュージアムだより

第29巻 第3号（通巻86号）2022年3月18日発行  
編集・発行 立命館大学国際平和ミュージアム  
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1  
TEL : 075-465-8151 / FAX : 075-465-7899  
<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/>

立命館大学  
**国際平和ミュージアム**  
Kyoto Museum for World Peace,  
Ritsumeikan University



今後、展示・イベントのご案内、ミュージアムだより等、国際平和ミュージアムより送付をご希望されない場合、また、送付先の住所変更等ございましたら、氏名・団体名、送付先住所、電話番号、FAX番号をご記入の上、国際平和ミュージアム（075-465-7899）へ送信下さい。